

神奈川県未病産業研究会 全体会

エーザイ株式会社の自治体における取り組み事例

エーザイ株式会社

2025年2月28日

製品戦略推進部 認知症領域室

飯濱 卓哉

エーザイ株式会社 | 会社概要



会社名称

エーザイ株式会社



連結社員数

11,067人

企業理念

患者様と生活者の皆様の喜怒哀楽を第一義に考え

そのベネフィット向上に貢献し

世界のヘルスケアの多様なニーズを充足する

連結子会社数

48社

Effectively Realizing the Social Good

設立

1941年12月6日

エーザイの価値創造を支える 活動の原点は「共感」です

企業理念を実現するために、私たちは患者様と生活者の皆様の言葉に表れない、表せない心の奥底にある想いに気づき、感じ、共感することを大切にしています。共感を育むためには、患者様や生活者の皆様と食事や作業などを通じて時を共に過ごす「共同化」が欠かせません。グローバルで活動する1万人を超えるエーザイ社員全員が、ビジネス時間の1%を患者様や生活者様と過ごす「共同化」の時間に充てています。この「共同化」で得られた共感を起点に、患者様や生活者の皆様のベネフィット向上のために何をなすべきかを誰よりも早く着想し、実践し、実証し、世界に発進させていくことで負託に応えていく。それが私たちの理念、ヒューマン・ヘルスケア（hhc）です。

エーザイは、企業理念の共有で 社会善を効率的に実現します

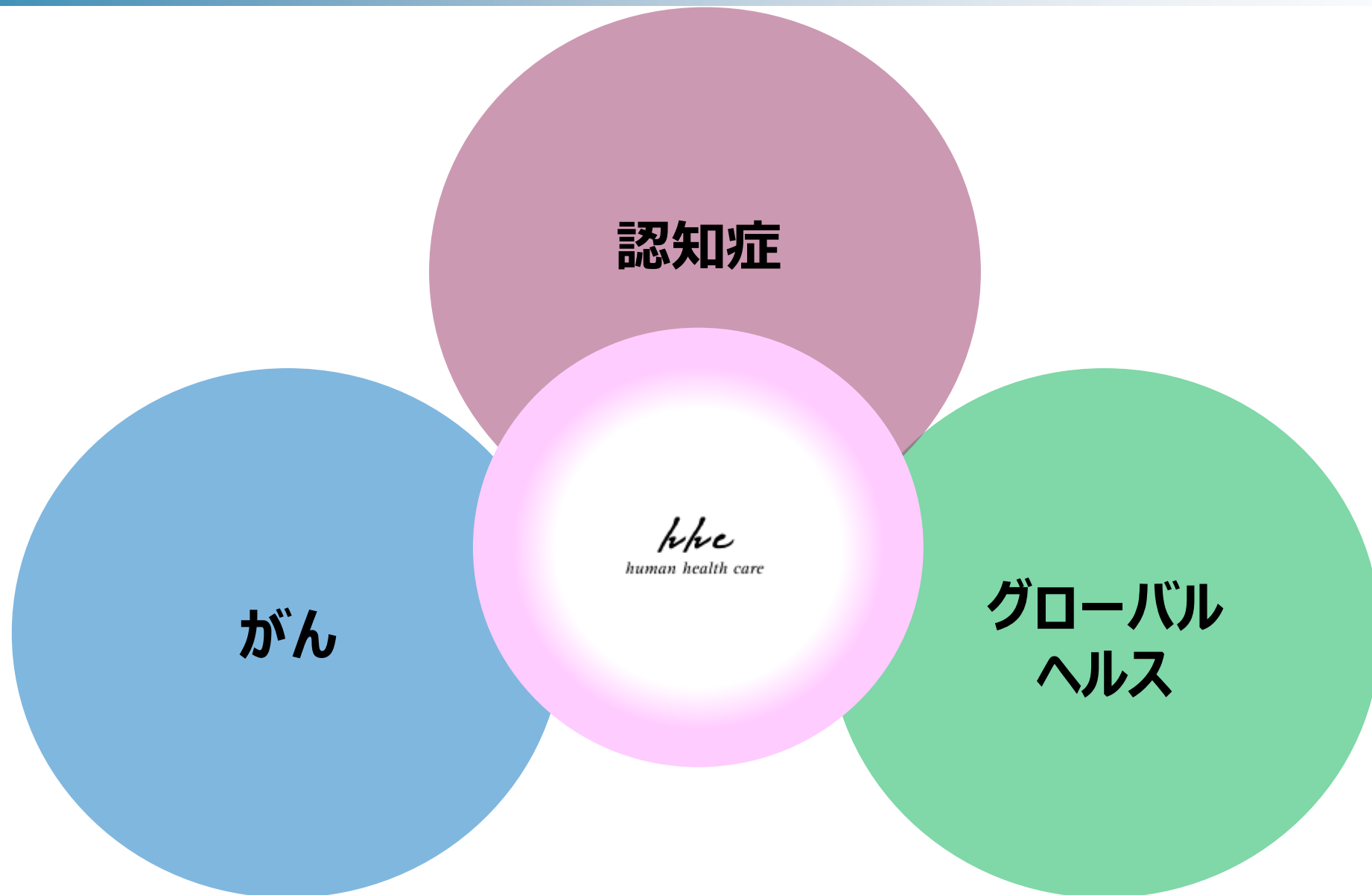
エーザイは、hhc 理念のもと、人々の「健康憂慮の解消」や「医療較差の是正」という社会善を効率的に実現することをめざしています。戦略的重要領域と位置づける「認知症領域」「がん領域」を中心とするアンメット・メディカル・ニーズの高い疾患領域において、革新的な新薬の創出と提供に取り組んでいます。また、グローバルヘルスへの取り組みとして、国連の持続可能な開発目標（SDGs）のターゲットのひとつである「顧みられない熱帯病（NTDs）」の制圧をめざして、世界のパートナーと連携して積極的に推進しています。

本社

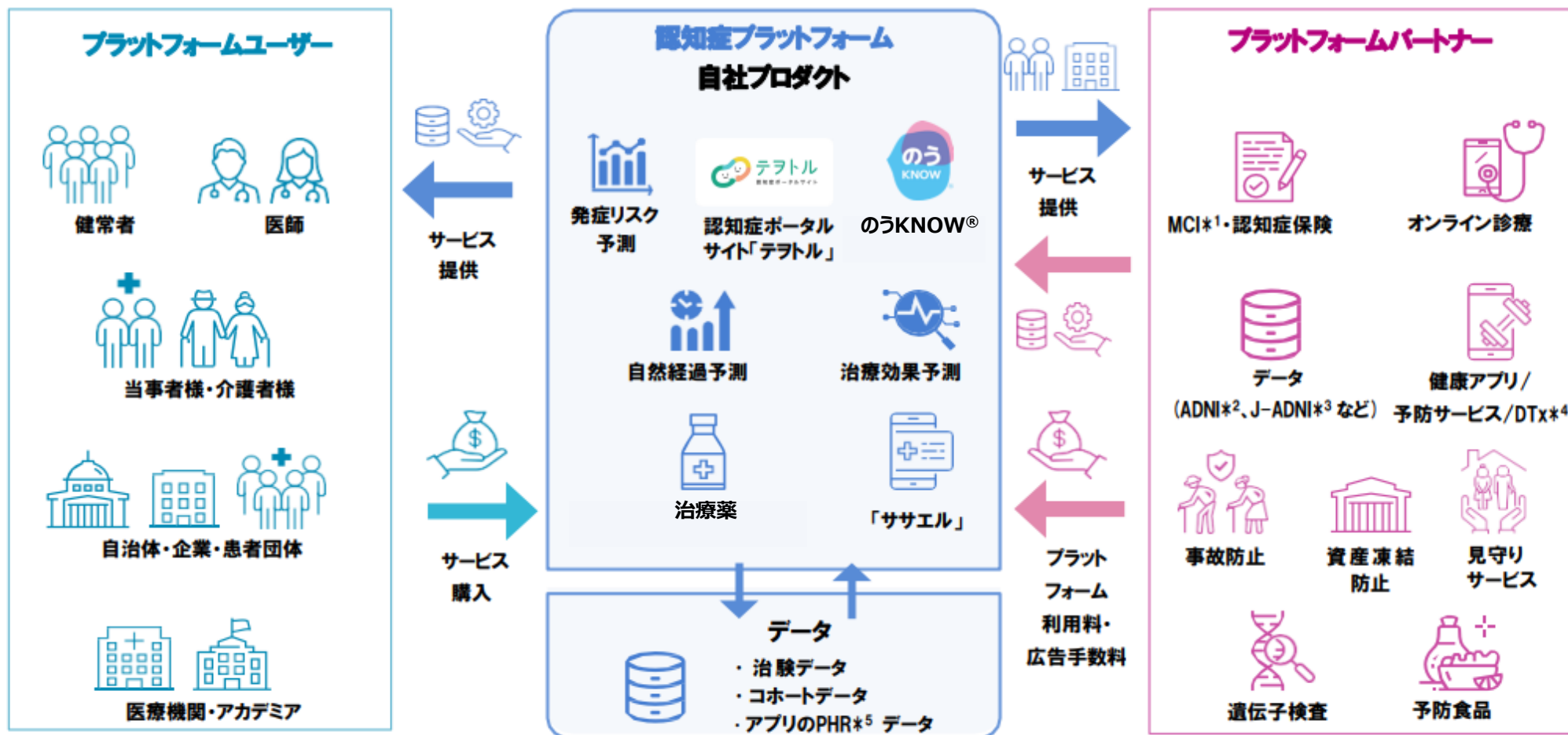
東京都文京区小石川

売上高

7,418億円
※2023年度連結業績



認知症領域におけるプラットフォームを構築し、 未病の段階から早期発見、早期支援まで一気通貫の仕組み化を目指す



・1 MCI: Mild Cognitive Impairment (軽度認知障害) ・2 ADNI: Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative
 ・3 J-ADNI: Japanese Alzheimer's Disease Neuroimaging Initiative ・4 DTx: Digital Therapeutics ・5 PHR: Personal Health Record

事例活用製品 のうKNOW[®]について



多数の使用実績を有するブレインパフォーマンスのセルフチェック

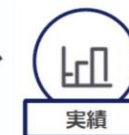
パソコン、タブレット、スマートフォンのデジタルデバイスで実施可能
所要時間は、約15分と短い



試験実施者が不要。自己実施することが可能（セルフチェック）
55か国以上で活用*。100言語以上に対応*
馴染みのあるトランプ柄を使用



国際的産官学連携による研究(DIAN、AIBL、ADNI、A4、GAP、TRC、PAD)、AMED研究(IROOP、日本版TRC)にて採用*



400報以上の論文報告*

認知機能低下群を対象としたブレインパフォーマンス識別能：
学習・ワーキングメモリーでは感度80.4%、特異度84.7%**



出典：Maruff et al. BMC Pharmacology & toxicology 2013, 1:30,1-11

ブレインパフォーマンスがスコア化され、定期的な状態の確認が可能



本品は医療機器ではありません、医師などの医療関係者による診察および診断に代わるものではありません。

国内外で広く使用されるCogstate Brief Battery

- 「**のうKNOW**」は、Cogstate Ltd.（本社：オーストラリア）が創出した認知機能チェック「**Cogstate Brief Battery**」を、日本において、ブレインパフォーマンス（脳の健康度）をセルフチェックするための非医療機器として開発しました。
- 「**Cogstate Brief Battery**」は、国内外で豊富な実績を有しています。
- 論文は、全て「**Cogstate Brief Battery**」を用いて実施した報告です。



国内外で広く使用されるCogstate Brief Battery



学習/ワーキングメモリーでは、感度80.4%、特異度84.7%でした。

海外データ

健康成人群と認知機能低下群のROC曲線

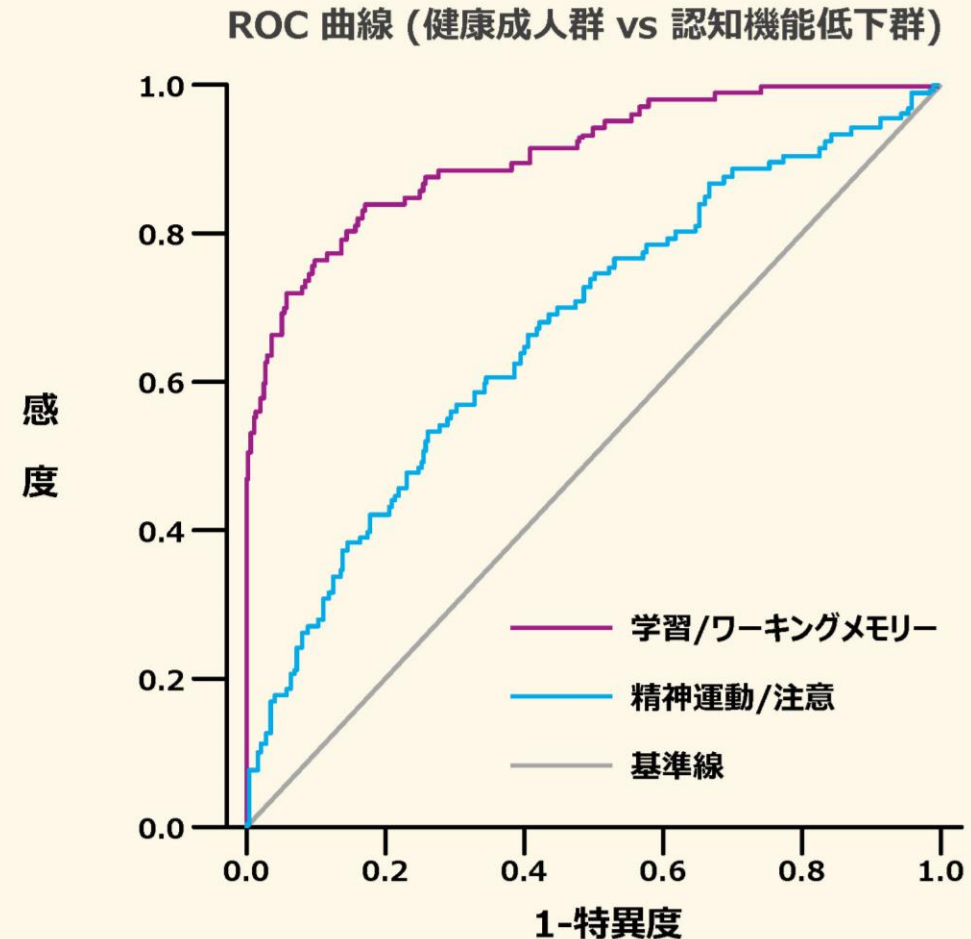
	感度 (95% CI)	特異度 (95% CI)	ROC曲線化面積 (95% CIs)	p 共分散分析*
精神運動/注意	41.1% (31.7-51.1)	85.7% (82.8-88.3)	0.67 (0.61-0.73)	< 0.0001
学習/ワーキングメモリー	80.4% (71.6-87.4)	84.7% (81.7-87.4)	0.91 (0.87-0.94)	< 0.0001

* 共変量：年齢、病前IQ、抑うつ症状のレベル

ROC = receiver operating characteristic;
精神運動/注意 = 探知と同定スピードスコアの標準化した平均;
学習/ワーキングメモリー = 1枚のカードの記憶・1つ前のカードの正確性スコアを標準化した
健康成人群（659人）、認知機能低下群（107人）を対象にROC曲線を描き、
Youden's J 統計量を用いて、感度、特異度を同定した。

出典：Maruff et al. BMC Pharmacology & toxicology 2013, 1:30,1-11

※ 論文は、全て「Cogstate Brief Battery」を用いて実施した報告です。

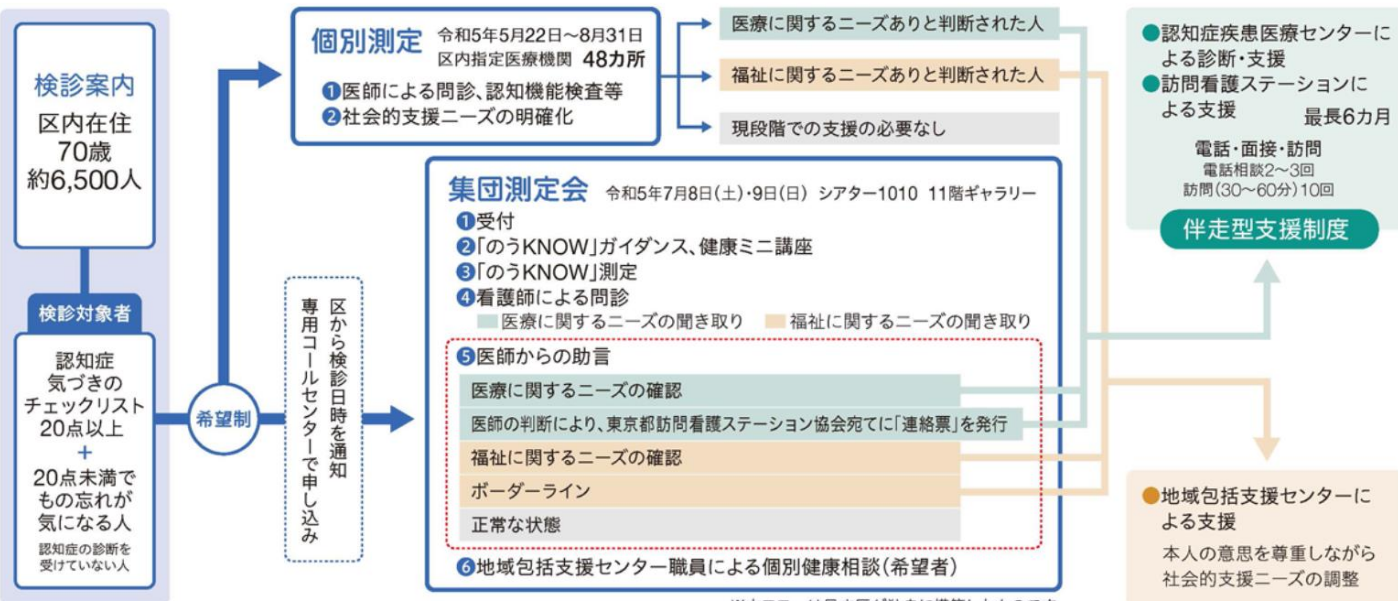


「のうKNOW」活用事例 | 東京都足立区

あたまの健康度測定 事業スキーム（令和5年度）

- 70歳を迎えた区民に「あたまの健康度測定」の案内を送付する。
- 案内に同封の「知って安心認知症」リーフレット裏表紙にある「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」でセルフチェックをしてもらう。
- チェックリストの合計点数が20点以上の人、もしくは20点未満でももの忘れが気になる人に、希望制で「あたまの健康度測定」を受けってもらう。
- 「個別測定」と「集団測定会」のどちらかを選んでもらう。
- 検診では医療的ニーズ、福祉的ニーズを確認し、必要に応じて医療機関への相談、「伴走型支援制度」や地域包括支援センターによるフォローにつなげる。

検診案内送付



検診スキームのその他のポイント

- 対象を70歳に設定**
70歳以降に認知症の推定有病率が急上昇することから、早期発見・早期対応・予防を目的に、対象を70歳の区民としました。
足立区は他区に比べ高齢者人口が多いため、受け入れのキャパシティとの兼ね合いも考慮し対象を絞りました。
- 当社の強みである医療機関（医師会）と連携した取り組み**
単に認知機能を測定するだけでなく、医師を含めた専門職へその場でご相談できる本スキーム構築は、当社が製薬企業であるからこそできる連携体制であり、住民に対しても幅広くニーズを満たすことができました。
- 集団測定会に「のうKNOW」を導入（二次元コードも配布）**
集団測定会を気軽に受けてもらうため、ゲーム感覚で脳の健康度をチェックできる「のうKNOW」を採用しました。
また、集団測定会（令和5年度）の決定通知書に「のうKNOW」の二次元コード付き案内チラシを同封し、検診前後に自宅等でもチェックを行えるようにしました。決定通知者のうち「のうKNOW」実施者は78名（39%）でした。
- 医療的ニーズ／福祉的ニーズの確認・支援**
検診では医療に関するニーズ（認知症やもの忘れの状況、身体的健康状態等）だけでなく、福祉に関するニーズも確認し、検診後支援につなげます。
- 「伴走支援制度」の活用**
医師が必要と判断した場合は、受診者に足立区の「伴走支援制度」の利用を勧め、区指定看護師による電話／家庭訪問での寄り添い支援につなげます（最長6カ月）。

「のうKNOW」活用事例 | 神奈川県厚木市



あつぎオレンジフェスタ2024

いいね! シェアする X ポスト

更新日：2024年10月31日 / 公開日：2024年07月26日

イベントは終了しました

オレンジフェスタについて

認知症になっても住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる地域包括ケア社会を実現するために、認知症への社会理解を深めるための取組の一つとして世界アルツハイマー月間に普及啓発イベントを開催します。

●認知機能検査+相談コーナー

場所 7階ルーム703

現在の脳の健康度をチェックしてみましょう。



※本チェックは疾病の予防・診断を
目的としたものではありません

※イメージ画像

アンケート結果

- 累計**42**名（男性10名、女性32名）
- 30代～80代まで幅広い世代が実施
- 実施理由は**チェックに関する興味関心が高い**
- 難易度は普通～難しいと感じた方が多い
- しかし**80%以上**の方は楽しいと回答
- 加えて**95%の方**がまたやりたいと回答

※引用：厚木市ホームページ

神奈川県との連携 | 未病と未病産業施策

未病 (ME-BYO)

心身の状態を健康と病気の二分論の概念で捉えるのではなく、「健康」と「病気」の間を連続的に変化するものとして捉え、この全ての変化の過程を表す概念を「**未病**」としています。

未病産業を活用した未病改善の推進



未病産業研究会
ME-BYO Industry

未病産業研究会

企業間連携による新しい商品・サービスの創出・拡大など、未病産業を創出する過程における様々な課題を解決する場として設立
(R6.11.1時点:1,175社)



ME-BYO BRAND

- 未病状態を見える化する又は未病状態の改善が期待できる商品・サービスの内、特に優れたものを認定
- R6年4月時点で40件の商品・サービスを認定

未病産業社会実装
モデル事業

- 未病関連製品・サービスを活用して市町村のフレイルに関する課題解決を目的とした事業
- 県コーディネートの基、県内市町村と連携し、モデル的取組を実施

健康

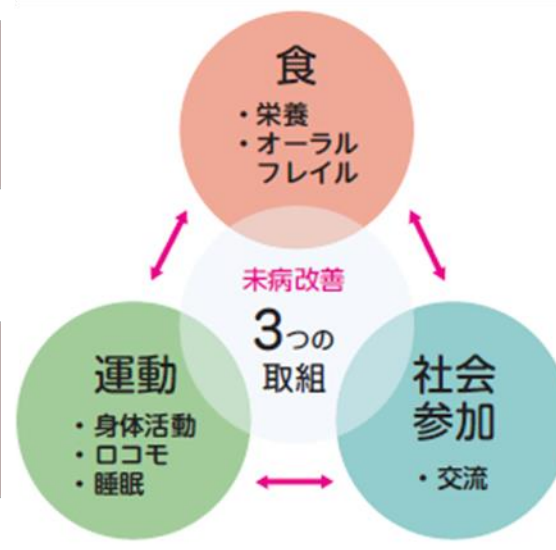
病気

健康

未病

病気

「未病」ME-BYOという新たな概念



神奈川県との連携 | ME-BYO BRAND「のうKNOW」認定



神奈川県
みんなの笑顔 いのち輝く 未来へ

ME-BYO BRAND

未病
ブランド
2024

未病とは？
心身の状態を「健康か病気か」といった明確に2つに分けられるものとして捉えるのではなく、健康と病気の間で連続的に変化するものとして捉える概念です。

ME-BYO BRANDとは？
ME-BYO BRANDは、未病の見える化や未病の改善につながることを期待できる商品・サービスのうち、優れたものを神奈川県が認定したものです。ME-BYO BRANDの商品・サービスを使って、皆さんと一緒に「未病の改善」に取り組んでみませんか？

各商品・サービスの詳細はこちら
ME-BYO BRAND

ME-BYO BRANDの領域

新たな ME-BYO BRAND 認定商品
令和6年3月に新たに8件の商品・サービスが認定され、合計40件となりました！

エーザイ株式会社の「のうKNOW」
スマホ端末等からトランプを用いた約15分の認知機能チェック（脳年齢、集中力、記憶力）を行う。

NTTプレジデンティン株式会社
Genovision Dock®
血液や尿を採取して行う「遺伝子検査サービス」。ゲノム情報を解析し、将来の疾患リスクや体質の傾向をレポート。

株式会社CogSmart
BrainUp
有酸素運動の強度等をウェアラブルデバイスで計測し、脳の海馬の育成を目指すアプリ。

株式会社
人間と科学の研究所
ウェアラブル生体センサBIT®及び解析サービス
心拍数や呼吸数、心機能の状態、睡眠時無呼吸の状態や睡眠の質、ストレスの状態などを見える化できる。

のうKNOW®（エーザイ株式会社）



スマホ端末等からトランプを用いた約15分の認知機能チェック（脳年齢、集中力、記憶力）を行う。

海外で開発され広く使われている認知機能チェックの仕組みを、日本において脳の健康度を測る非医療機器のセルフチェックツールとして開発したもの。

短時間で手軽に自己の脳の健康度を客観的に自覚でき、日常行動の変容を促すことが期待できる。

〇エーザイ(株) のうKNOW® HP : <https://nouknow.jp/>

エーザイ(株)記者発表資料（2024年3月28日）（PDF：686KB）

本品は医療機器ではありません。医師などの医療関係者による診察および診断に代わるものではありません。

2024年ME-BYO BRAND認定

地域での実証事例

■ 神奈川県庁と協力し、フレイルや認知症の地域課題の解決を目的に、行政や地域と連携して実証事業を実施

神奈川県ME-BYO BRAND認定



公民館の事業



地域包括支援センター



アンケート結果

- 2包括、累計18名
- 平均年齢77歳
- 操作性は50%が普通・難しかったと回答
- 83%が楽しかったと回答
- 94%がまた受けてみたいと回答
- 自分の身にも起こりえることで、気になっていた。疲れたけど、またやってみたい。という意見あり



- ✓ 神奈川県下において、エーザイ・神奈川県庁との連携により、地域住民へ脳の健康を知る・学ぶことの重要性を周知し、**血圧や体重と同じように脳の健康度を測る文化を醸成**してまいります。
- ✓ 上記取り組みは当社だけでは困難であるとも考えております。**認知症プラットフォーム構築には他産業との連携も重要**と考えますので、既存の取り組みに認知機能の要素を組み入れる際など、ぜひお声がけ下さい。